

SIDR

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 24年 8月
(第31 ~35週)

発行年月日 : 平成24年(2012年) 9月11日
発 行 : 滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といい、届出により全国または滋賀県で発生している一～四類および五類感染症の発生状況を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 24年				平成 23年 ^{*1}				感染症 類型	疾 病 名	平成 24年				平成 23年 ^{*1}			
		1～7月		8月		1～12月		1～7月				8月		1～12月					
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国				
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	48	0	25	0	190	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	0	0	0	9	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	1		ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	2	0
	結核	151	16,671	40	2,840	338	31,467	0	0		ベネズエラマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	3	0	0	0	0	6	0
三類	コレラ	0	3	0	0	0	0	0	12	マラリア	2	39	0	13	0	78	0	0	
	細菌性赤痢	0	112	0	31	5	299	0	0	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	25	1,367	7	1,045	71	3,938	0	0	ライム病	0	5	0	3	0	9	0	0	
	腸チフス	0	14	0	5	0	21	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
	バラチフス	0	10	0	2	0	23	0	0	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
四類	E型肝炎	0	81	0	4	0	61	0	0	五類	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	3	0
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0		レジオネラ症	4	485	2	67	12	819	0	0
	A型肝炎	1	115	0	7	0	176	0	0		レプトスピラ症	0	8	0	1	0	27	0	0
	エキノコックス症	0	6	0	0	0	0	0	18		ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0		アメーバ赤痢	8	487	2	92	2	814	0	0
	オウム病	0	5	0	0	0	0	0	13		ウイルス性肝炎	0	126	0	16	1	249	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		急性脳炎	3	237	0	29	1	259	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	6	0	0	0	8	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	106	0	12	2	136	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	153	0	19	2	198	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	4	782	0	142	6	1,523	0	0
	コクシジオイデス症	0	1	0	0	0	0	0	2		ジアルジア症	1	31	0	14	1	68	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0	髄膜炎菌性髄膜炎	0	7	0	2	0	12	0	0	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	先天性風疹症候群	0	0	0	1	0	1	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	梅毒	0	474	0	99	6	827	0	0	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	破傷風	0	60	0	12	1	114	0	0	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	1	0	0	0	0	
	チクングニア熱 ^(*)	0	3	0	1	0	10	0	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	52	0	9	0	73	0	0	
	つつが虫病	1	192	0	3	1	461	0	0	風しん	12	917	0	502	2	374	0	0	
	デング熱	0	79	1	36	1	112	0	0	麻しん	1	201	0	33	1	443	0	0	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	動物の 感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	0	0	0	0	0	72	0
									細菌性赤痢のサル		0	1	0	0	0	9	37	0	
									エキノコックス症の犬		0	0	0	0	0	0	0	0	
(※)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。ー：未集計																			
*1 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、H24.3現在)																			

滋賀県における全数報告感染症の概要 (8月)

＜結核＞ 40名
性別: 男性 28名、女性 12名
類型: 患者 23名
無症状病原体保有者 17名
病型: 肺結核 11名
その他の結核 12名
無症状病原体保有者 17名

＜腸管出血性大腸菌感染症＞
性別: 男性 2名、女性 5名
類型: 患者 6名
無症状病原体保有者 1名
年齢: 5～9歳 2名、10～19歳 3名
30～39歳 2名
血清型・毒素型:
O157・VT1+VT2 4名
O157・VT1 1名
O26・VT1+VT2 2名

＜デング熱＞ 女性 20歳
推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染で、推定感染地域はマレーシアです。

＜レジオネラ症＞ 男性 58歳、79歳
推定感染経路は2名とも不明で、推定感染地域は2名とも日本国内です。

＜アメーバ赤痢＞
男性 47歳、女性 28歳
推定感染経路は経口感染および異性間性的接触で、推定感染地域は日本国内およびインドネシアです。また、病型は2名とも腸管アメーバ症です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

8月の概要

<インフルエンザ>

先月より報告数は増加していますが、大津市、草津および東近江保健所管内から報告があったのみで、他の保健所管内からの報告はありませんでした。

<小児科定点疾患>

右記グラフ(小児科定点疾患別発生状況)に示すとおり、前月より増加した疾患はRSウイルス感染症、百日咳、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)等で、減少した疾患は咽頭結膜熱(プール熱)、A群溶レン菌咽頭炎、水痘およびヘルパンギーナでした。各疾患の週別発生状況は、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照。

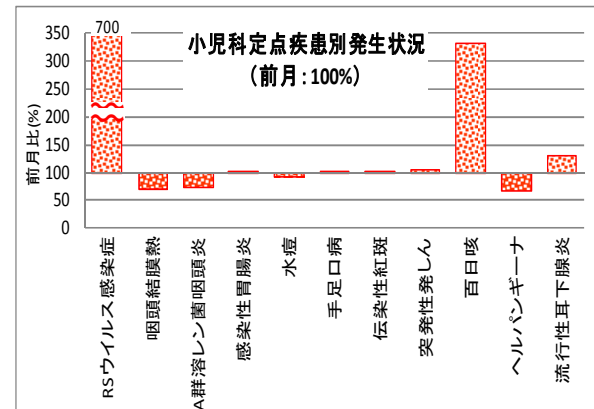
RSウイルス感染症——先月(定点当たり患者数0.03)より増加し、今月の定点当たり患者数は0.21となっていました。また、長浜および高島保健所管内以外から報告されていました。

手足口病——高島保健所管内では、第29週(7/16～7/22)に警報開始基準値(5.00)を超えましたが、第34週(8/20～8/26)に警報終息基準値(2.00)未満となりました。

百日咳——先月の約3.5倍増となっていました。特に大津市保健所管内からの報告が多く、ほぼ毎週、報告がありました。

A群溶レン菌咽頭炎——県全体では先月より減少していましたが、昨年同時期と比較すると多くなっていました。また、保健所管内別では草津からの報告が多くなっていました。

ヘルパンギーナ——第31週(7/30～8/5)に県内全域に警報が発令され、第34週(8/20～8/26)には解除されました。また、県全体では減少傾向となっていますが、高島保健所管内では多い状態が継続し、警報終息基準値(2.00)を超えています。保健所管内別発生状況については、下記グラフのとおりです。



<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月の2倍増となりました。特に第33週(8/12～8/19)には、甲賀保健所管内で急増し、警報開始基準値(定点当たり患者数8.00)を超えました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患であるマイコプラズマ肺炎は先月とほぼ横ばいで、長浜保健所管内からの報告が多くなっていました。また、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

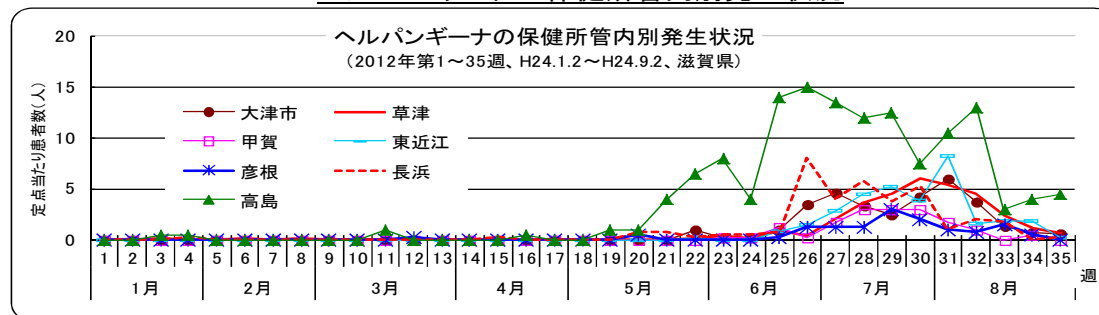
<各定点の対象疾患>

<インフルエンザ(入院)>

インフルエンザサーベイランスにおけるインフルエンザの入院患者の届出はありませんでした。また、全国における第31～35週の入院患者数は145名でした。

<疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。 **ヘルパンギーナの保健所管内別発生状況**

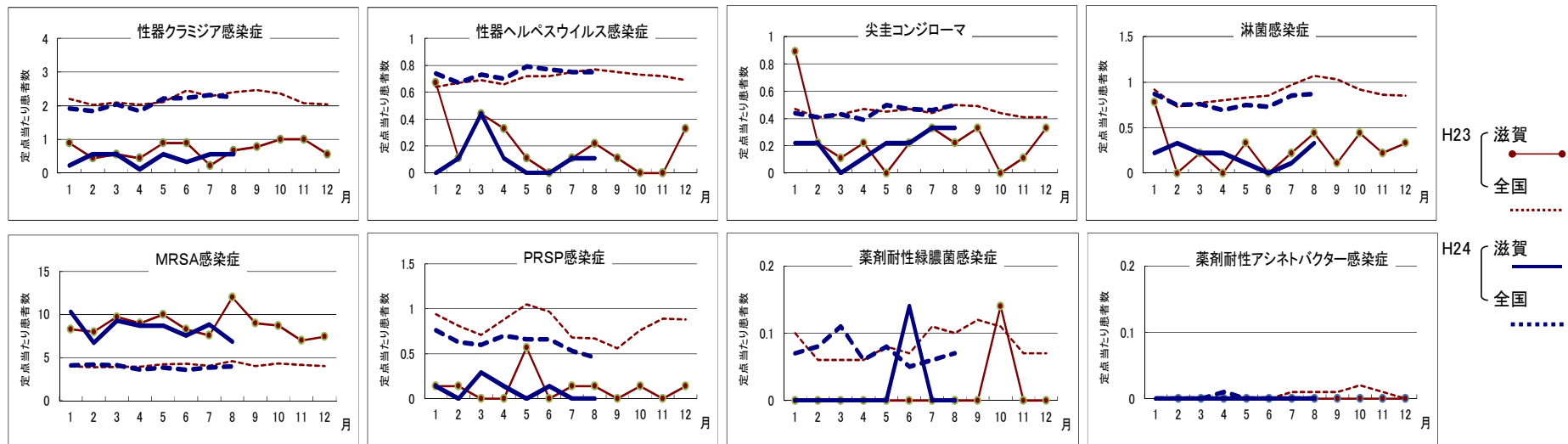


定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 24年8月)

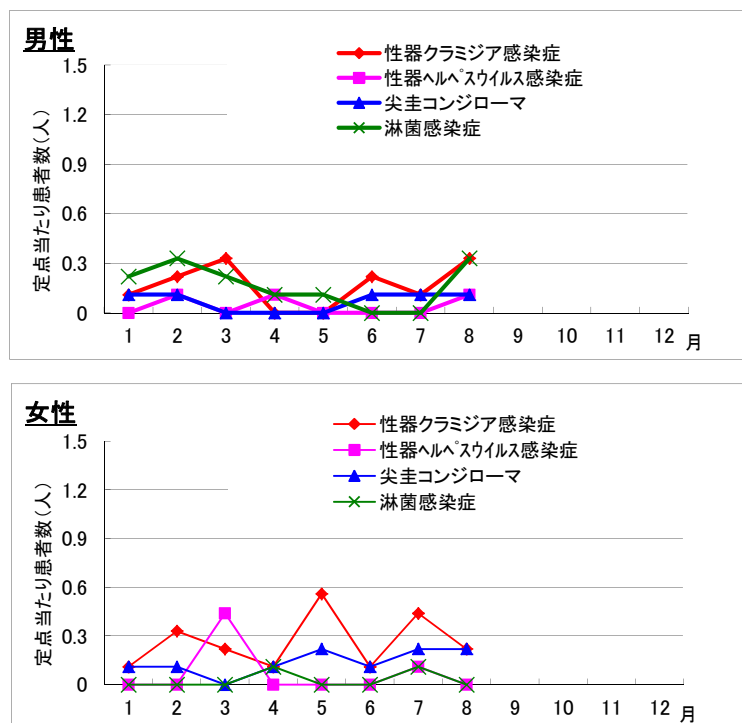
疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	2	5	5	1	5	3	5	5					31
	定点当たり患者数	0.22	0.56	0.56	0.11	0.56	0.33	0.56	0.56					3.46
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	0	1	4	1	0	0	1	1					8
	定点当たり患者数	0	0.11	0.44	0.11	0	0	0.11	0.11					0.88
尖圭コンジローマ	報告数	2	2	0	1	2	2	3	3					15
	定点当たり患者数	0.22	0.22	0	0.11	0.22	0.22	0.33	0.33					1.65
淋菌感染症	報告数	2	3	2	2	1	0	1	3					14
	定点当たり患者数	0.22	0.33	0.22	0.22	0.11	0	0.11	0.33					1.54
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	72	47	65	61	61	53	62	48					469
	定点当たり患者数	10.29	6.71	9.29	8.71	8.71	7.57	8.86	6.86					67.00
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	0	2	1	0	1	0	0					5
	定点当たり患者数	0.14	0	0.29	0.14	0	0.14	0	0					0.71
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	1	0	0					1
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0.14	0	0					0.14
薬剤耐性 アシネトバクター感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0	0					0



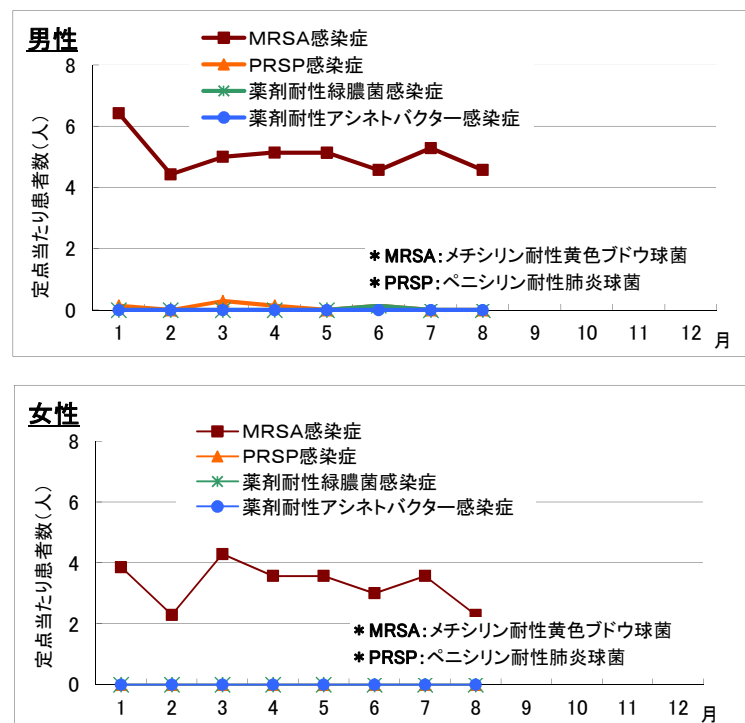
滋賀県における発生状況は上記に示すとおりです。先月と比較すると、増加した疾患は淋菌感染症で、減少した疾患はMRSA感染症でした。性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマは横ばいでした。また、PRSP感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネトバクター感染症については、先月と同様、報告はありませんでした。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況 (H24.8)

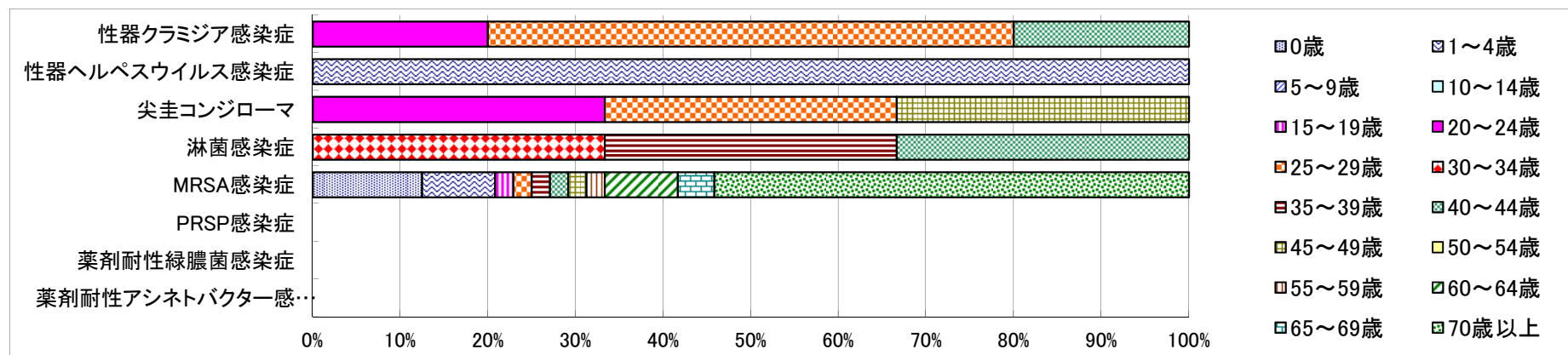


基幹定点における疾患別発生状況 (H24.8)

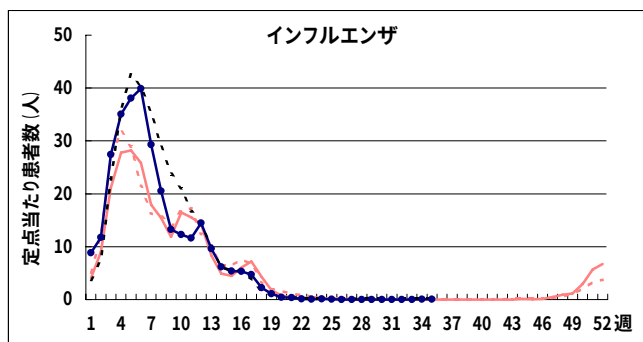


性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。先月と比較すると、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症および淋菌感染症では、男性で増加し、女性で減少していました。尖圭コンジローマでは、男女ともに横ばいでした。また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症および尖圭コンジローマでは、20～29歳からの報告が多くなっていました。

疾患別・年齢別発生状況(H24.8)

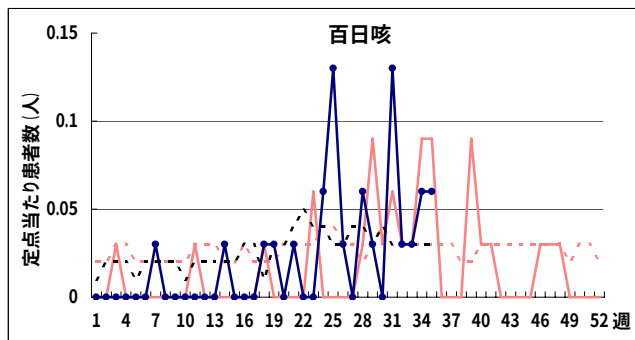
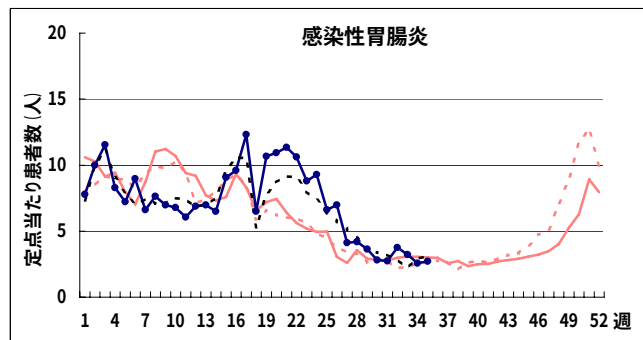
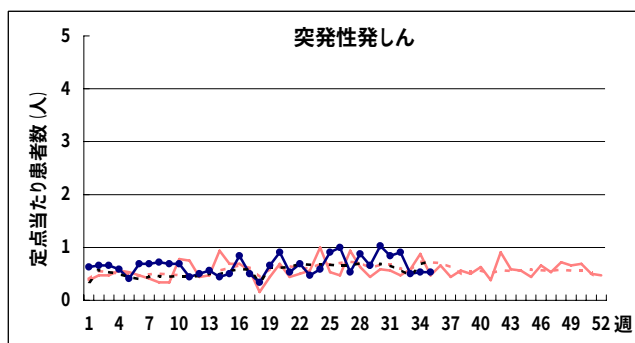
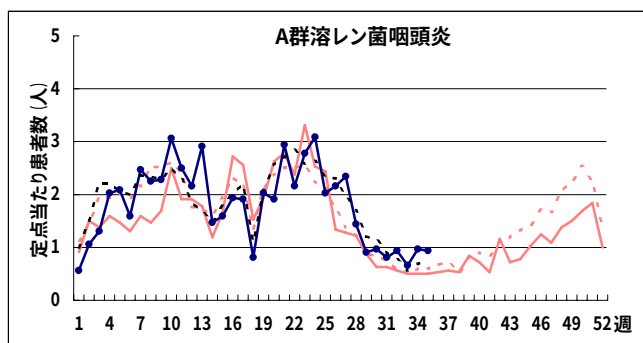
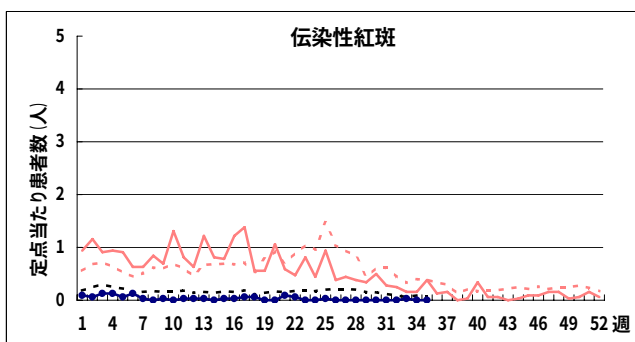
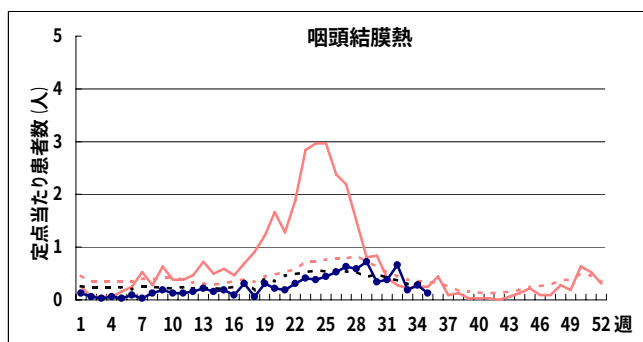
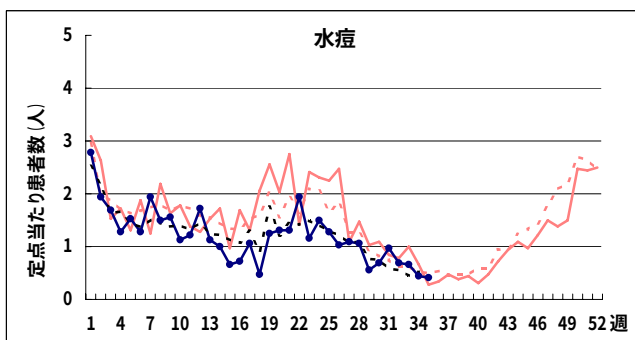
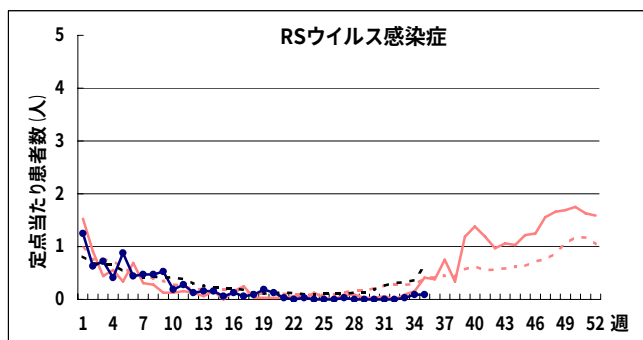


疾病別定点当たり患者数 (平成24年第 35 週、H24.1.2～H24.9.2)



H23 { 滋賀 (solid red line)
全国 (dotted red line)

H24 { 滋賀 (solid blue line with dots)
全国 (dotted blue line)



疾病別定点当たり患者数 (平成24年第35週、H24.1.2～H24.9.2)

H23 〔 滋賀 全国 〕 H24 〔 滋賀 全国 〕

